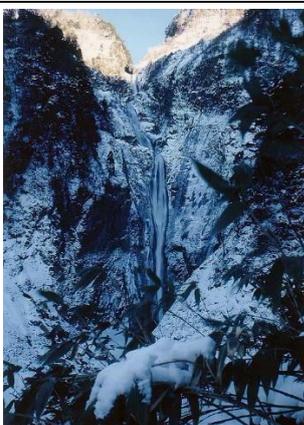


立山・剣岳シリーズ タイトル「称名滝の四季」

	<p>称名滝への開通は、例年4月の最終の日曜日です。早速、「大日岳」へ出かけました。しかし、このシーズンは「称名滝」への開門が遅いので、山へ行くのにはちょっとびり大変ですなのです。辺りにはまだまだ雪がたくさんあります。</p>		<p>誰もいない道・・・雪渓・・・を登ると、いるのは「かもしか」くんだけだった。・・・もの珍しそうに見つめる。 多分、ここでは、こちらが「闖入者」なのだろう。</p>
	<p>しかし、なんともりっぱな「タテガミ」・・・このようなりっぱな「カモシカ」は初めて見ました。・・・やがて、悠然と去っていきました。</p>		<p>称名坂を登ると、称名滝の全容が見えます・・・しかし、肝心の「本滝」は見えませんが。隣の「ハンノキ滝」、落差約500m、湧水期がなければ正真正銘、「日本一の」なのです。上方は「弘法」周辺になります。</p>
	<p>夏になれば賑わう、「レストハウス称名」、なんと、有名な「仙人池ヒュッテ」のおばちゃんのお子さんが経営しておられます。正面には早くも「氷」看板が見えます。</p>		<p>夏とは言え、まだまだちらほら雪渓が見えます。日のあたる時間が短いので、なかなか雪渓は解けないのです。</p>
	<p>もう一度、称名坂へ登ると、まだまだ雪渓がたくさんあるのがわかります。</p>		<p>旧立山道の「滝見台」、この展望台は、明治天皇陛下が立山来られたときに、称名滝」をご高覧のために特別に作られました。バスは停車しませんので、「美女平」から弘法」まで歩いて行くしかありません。</p>

	<p>滝の近くへ寄ると、こんなにびっしり雪渓があります。まだまだ雪が多くて、自由に歩くことができます。</p> <p>・・・しかし、水量が多いので、落ちないように??注意しましょう。</p>		<p>最近、しっかりとした「滝見台」ができたので、とても安心です。</p> <p>・・・新緑の「称名滝」もなかなかいいものです。</p>
	<p>陽気の良い日は、いつもこのように「虹」を見ることができます。お昼ごろの暖かい日がよいでしょう。</p>		<p>ここは、「高原バス」が止まって、観光客に見せてくれるポイント、「展望台」です。いかに、迫力が違うかわかるでしょう。</p>
	<p>こんなに、りっぱに見える「滝見台」は、やはり他にはないでしょう。</p>		<p>初秋に「弘法」から八郎坂を降りて、秋の称名滝を眺めました。</p> <p>素晴らしいポイントがたくさんあるのですが、まだちょっぴり紅葉が早いようです。・・・</p>
	<p>・・・日が落ちると、瞬間に、暗くなるのが「称名滝」です。・・・「レストラン称名」についての頃は真っ暗になってしまいました。・・・</p>		<p>「厳冬期の称名滝」の写真を紹介します。暖冬の12月に、スキーで訪れることができました。ここまで歩くと結構つらいものがあります。このときの写真は、「展望台」のない時なので、撮影はかなり困難で、貴重な写真だと思います。写真の手前の「くま笹」がある周辺が、現在の「滝見台」なのです。</p>
	<p>暮れるのが早い「幽谷」、称名滝は「つるべ落とし」のように日が暮れるのが早い。「八郎坂」の途中、もう日が落ちてしまいました。</p>		<p>「厳冬期の称名滝の滝壺」です。この青白く「不気味な色」が、これから訪れる「厳しい氷と雪に囲まれた」世界を想像させてくれます。</p>